



造形秋田

NO.58 (令和3年度)

2022.4



秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会

Art for art's sake

秋田県造形教育研究会
会長 鎌田 悟

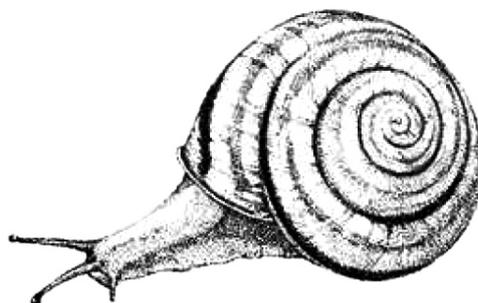
令和3年度「造形秋田」の発刊にあたり、編集及び執筆にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今年もコロナ禍の影響でいろいろな研究会や美術展などが中止している中であって、第43回秋田県造形教育研究大会、令和3年度北ブロック能代山本大会を開催することができました。

本大会の開催に当たっては、開催するかしないかと言うより、開催できるかできないかでだいぶ迷いましたが、能代・山本地区の先生方の熱い思いが一つとなって開催にこぎ着けることができました。平成30年に秋田市で開催された全国大会以来の授業研究会でしたが、マスクをしながら夢中になっている子どもたち、それを支える先生の姿を見て、コロナ禍であっても、物づくりの火は消えていなかったのだと改めて実感いたしました。

秋田県児童生徒美術展は、昨年引き続いて各地区での応募・審査という形で開催されました。昨年の反省を活かした新たな形での審査・展示を模索いただいた意味では、「表現、審査、展示」の本質的な意味を再考できたよい機会ではなかったかと思えます。今後も感性や造形感覚を高める教育課程における造形活動と美術展との関係の在り方を模索して参りたいと考えます。ご協力いただいた各地区会員の皆様に、改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、11月19日の能代・山本大会では、講師の奥村教授より、「Art for art's sake（アートはあくまでもアートのために在り、何かのためにあるのではない）美術そのものが生存価値である」とのお話がありました。学力向上、資質・能力の育成等、時代の変化とともに私たちの追究すべき教科課題は尽きないわけですが、あくまでも子どもたちが、素直に「美しい」と思う気持ちを支え育てていくための秋田の造形教育でありたいと願って、巻頭言とさせていただきます。



目次

巻頭言

Art for art's sake

各都市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第62回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第62回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧・・・・・・・・・・ 12

第43回秋田県造形教育研究大会

令和3年度 北ブロック（能代山本）大会・・・・・・・・・・ 19

・
・
・
・
・
・
・
・
・

表紙絵 図工に集中
第四小学校5年 佐藤 汰樹

各都市造形教育研究会の活動報告

組織

会長	松尾 弘	(尾去沢小学校)			
副会長	関 清志	(十和田中学校)			
事務局	川口 好陽子	(柴平小学校)	理事	橋本 忍	(尾去沢小学校)
研究部	藤本 圭	(花輪中学校)	理事	山崎 明子	(十和田小学校)
事業部	滝澤 政夫	(大湯小学校)	理事	木村 史子	(花輪小学校)

主な事業

令和3年度総会
(鹿角市立花輪中学校
／4月23日)

県児童生徒美術展鹿角地区審査会
鹿角造形教育研究会 研修会
(文化の杜交流館コモッセ／12月10日)

鹿角小・中・高合同美術展
※県造形教育研究大会実践発表に向けて
(文化の杜交流館コモッセ／11月8日)

鹿角小・中・高合同美術展
(コモッセ／1月18日～1月24日)
作品を見合う会 (中止)

研究会(事業)の記録

角造形教育研究会研修会(11/8)

第43回秋田県造形教育研究大会北ブロック(能代山本)大会で海沼智恵子先生(花輪小学校)が実践発表するため、これまでの海沼先生の実践内容を報告していただき、発表の内容について検討するための研修会を開催した。

児童がこれまでの図工の学習の中で培ってきた知識・技能を生かしながら、自分のイメージと向き合い試行錯誤するための空間や時間、手立てが保証された実践は大変参考になるものであった。

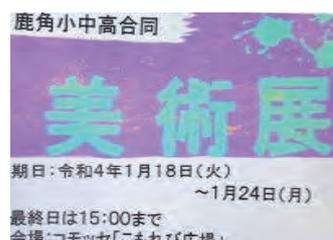
県児童生徒美術展鹿角地区審査会(12/10)

今年度は、小・中合わせて78点の作品が出品され、そのうち24点の作品が入賞し、5点の作品が地区審査にて話題作に選ばれた。

鹿角小・中・高合同美術展(1/18～1/24)

今年度も小・中・高合同美術展を開催した。県児童生徒美術展に出品された小・中学生の作品78点のほかに、高校生の作品も出品され、多くの来場者に鑑賞していただくことができた。

最終日には、北教育事務所の田森舞指導主事をお迎えして、作品を見合う会を開く予定であったが、当地区内での新型コロナウイルス感染症の流行により、急遽中止とせざるを得なくなった。



話題作(小1)



話題作(小3)



話題作(小6)



話題作(中3)



話題作(中1)

組織

会長	藤嶋 幹子	(鷹巣東小学校)			
副会長	三澤 正敏	(成章小学校)	渡辺 俊春	(南小学校)	
	松田 由佳	(阿仁中学校)			
事務局	佐々木 亜希子	(田代中学校)	沼田 桃子	(森吉中学校)	
県役員					
[研究部]	沼田 桃子	(鷹巣中学校)	[事業部]	深川 千幸	(森吉中学校)
[事業部]	木村 明美	(米内沢小学校)			
会計	コリガン 麻衣	(北陽中学校)	佐々木 由美	(北陽中学校)	

主な事業

大北造形研究会総会 (4月)
→メール配信型で行った

第62回秋田県児童生徒美術展地区審査会
第44回絵を見て語る会
(11月26日) 会場：田代公民館

造形教育研究会北ブロック
(能代山本) 大会大北から実践発表
小学校：鷹巣小学校豊田良香
中学校：第一中学校コリガン麻衣

最終理事会
美術展賞状の仕分け作業
(1月28日) 会場：田代公民館

研究会の記録

今年度から、秋田県児童生徒美術展地区審査会と「絵を見て語る会」(研修会)を同日開催とし、感染症予防対策をしながら、半日でコンパクトに行うことができた。例年と比べて出品数が制限されているため、出品数、選考数ともに少なく、少し寂しさを感じられた地区審査会ではあったが、出品された作品はどれも児童生徒の思いが詰まった唯一無二のものであった。

地区審査会では、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学校という4つの部門で審査を行うが、会員数が年々減少しているため審査員も少なく、各部門3~4人という限られた人数での審査となった。小学校の先生方は小学校の審査、中学校の先生方は中学校の審査をすることが多いのだが、来年度からは、審査員の校種を織り交ぜながら各部門に配置することで、子どもの9年間の学びの連続性を意識しながら作品を見て、審査や研修を深められるようにしたい。



絵を見て語る会発表場面



全体会の様子

話題作に選ばれた小学校1年生の作品→
画面いっぱい好きなものが描かれ、
描くことの楽しさが伝わってくる。



組織

会長	矢田部 瑞穂	(浅内小学校)			
副会長	明石 まき子	(第五小学校)	鈴木 正樹	(藤里中学校)	
会計監査	芹田 亨	(山本中学校)	越前 芳広	(第四小学校)	
事務局	岩谷 修一	(琴丘中学校)			
理事	長浜 笑子	(東雲中学校)	渡部 悦子	(能代第一中学校)	
	伊藤 康子	(湖北小学校)	越後 谷知子	(峰浜小学校)	
	鈴木 悦子	(藤里小学校)			
研修班	田中 絵里奈	(能代第二中学校)	芹田 亨	(山本中学校)	
	越前 芳広	(第四小学校)	小林 翔子	(能代南中学校)	
	小山 由美子	(二ツ井小学校)			

主な事業

総会・実行委員会

令和3年度第43回造形教育秋田県大会北ブロック(能代山本)大会に向けての研究の方向性や授業内容、準備の進行状況や当日に向けての課題を確認する会を次の4回実施した。

総会・実行委員会

大会当日の授業者による授業研究会を授業者4名が、次の日程でそれぞれ1回ずつ行った。また、それに向けて授業チームでの指導案検討会を行った。

6/29, 7/14, 9/30, 10/5

第43回

秋田県造形教育研究大会北ブロック(能代山本)大会の開催 11/19

秋田県児童生徒美術展審査会 12/10

第43回秋田県造形教育研究大会北ブロック(能代山本)大会

11月19日(金)「美しいあきたの形や色を再発見～発信!～わたしの力ふるさとの力造形の力」をテーマに、能代市立浅内小学校、能代市立能代第二中学校を公開授業・授業研究会会場に、能代文化会館を全体会、分科会・実践発表、記念講演会会場に開催された。また、記念講演会講師として、日本体育大学教授奥村高明氏をお招きし「美術教育の生存価とこれからの美術教育」という演題で、講演をしていただいた。当日は全県各地から63名の方が参加し、4つの研究授業と6つの実践発表が提案され、活発な話し合いが行われた。

当日能代・山本地区から提案された授業と、その様子は次の通りである。



小学校2年
すきです!浅小
すきです!浅内

授業者
能代市立浅内小学校
教諭 小松 知優



小学校4年
～お気に入りの「能代風の松原」を表現しよう～

能代市立第四小学校
教諭 後藤 加奈子
教諭 小松 知優



小学校6年
再発見
～わたしのふるさと金陵の丘～

授業者
三種町立金岡小学校
教諭 松淵 将吾



中学校2年
ふるさと能代をPRする
エコバックをデザインしよう

授業者
能代市立能代第二中学校
教諭 田中 絵里奈

コロナ禍ではあったが、秋田県造形教育研究大会を開催できたことが何よりの成果であった。苦労も多かったが、研修で得たことは、今後の大きな財産であると確信している。

(研修班第四小学校教諭越前芳広)

組織

会長	松田 万寿雄	(美里小学校)		
副会長	太田 三千代	(北陽小学校)	伊藤 晃	(美里小学校)
運営委員	都留 賀津人	(男鹿東中学校)	近江 和佳子	(天王南中学校)
	築瀬 智美	(井川義務教育学校)	上田 環	(五城目小学校)
事務局	中川 努	(天王中学校)		

主な事業

運営委員会 5 / 28 (金) 教科等研究会 9 / 8 (水)

県児童生徒美術展地区審査 (話題作の選出) 12 / 10 (金)

研究会の記録

(1) 研究主題よるこび・わくわく新たな発見～キラリ感じてつなげる、広げる～

(2) 活動の概要

① 教科等研究会

- ◆会場 大潟村立大潟中学校
- ◆時間 14:05～16:20
- ◆内容 実技研修
「見る力を育てる基礎トレーニング」
「缶バッジの作り方」
- ◆講師 鈴木由紀子 先生 (大潟中)
- ◆助言 松田万寿雄 校長先生 (美里小)
- ◆所感 一つ目の研修では、画面を見ずに対象だけを見てスケッチする実技を体験した。描いたものを消したり直したりせず、また出来映えを気にすることなくスケッチすることで、集中して注意深く見ることができると実感した。



二つ目の缶バッジの作り方研修では、作り方の手順や専用の機械の使い方を体験するとともに、一度に同じものを大量に作成するノウハウを学ぶことができた。参加者は、思い思いの図柄を描いて楽しみながら研修を深めることができた。

② 県児童生徒美術展地区審査

- ◆会場 潟上市立天王中学校
- ◆時間 15:30～16:40
- ◆所感 本来、地区審査は「子ども絵の見方研修」の場でもあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度と同様に話題作の審査を会長、副会長、運営委員、事務局のみで行ったので、造形部員全員の研修とはならず残念であった。

組織

会長	大野 一紀	(戸島小学校)		
副会長	三浦 直樹	(下浜中学校)	築地 洋	(中通小学校)
事務局	渡部 英明	(勝平小学校)	菊地 有希子	(日新小学校)
	中尾 裕子	(御所野学院中学校)		
幹事	小林 さおり	(将軍野中学校)	佐藤 水季	(雄和中学校)
会計	佐藤 廣子	(勝平中中学校)		

主な事業

大森山動物園
第44回親と子のふれあい写生大会
(大森山動物園と共催：審査日8月21日)

クロッキー展：市内各小学校
(審査・展示：各小学校で)

秋田県児童生徒美術展
秋田市作品募集・審査・展示
(審査12月6日～12月10日)
(展示2月下旬を予定)

研究会の記録

親と子のふれあい写生大会

今年も昨年度と同様に、新型コロナウイルスの感染拡大により、開催が危ぶまれた。5月に行われた実行委員会で検討した結果、毎年楽しみにしている子どもたちのためにも昨年度と同じような方法で実施することとなった。立体の部は中止し、原則園内での制作をせず、自宅での制作とした。園内での簡単なスケッチや写真・動画撮影は可とし、それらや園の公式 SNS などをもとに制作してもらうことにした。作品の募集期間を8月2日～8日までの7日間と幅をもたせ、集中しないように配慮した。集まった作品は8月21日(土)に秋田市造形教育研究会会員の担当が審査した。昨年よりは少なくなったが約340点の応募があった。家でじっくりと時間をかけて制作した作品も多くみられ、テーマ表現のため、考え抜き工夫された構図や色使いに、作者の作品にかける思いを感じ取ることができた。審査前日にワクチン接種による体調不良で審査に不参加の会員もあり、当初の予定よりも少ない人数での審査となった。各学団ごとに担当を決め、話し合いながら賞を決めていった。動物園の園長にも参加していただき、「子どもの絵には動物に対する気持ちや感性がよく表れる。風景画などと違い動物園での動物写生は、いのちと向き合いながらの作品づくりになる。生き物、動物の内面と向き合って描く作業ともいえる。絵を描く技術もさることながら、生命を感じ、生きている動物を見つめ、自然への想いも膨らませながら描いてほしいという思いがある」というお話をうかがった。今年度も、作品を見る目を養う有意義な研修の場となった。来年度は、動物たちと対話しながらの写生会が行われることを願っている。



審査の様子

秋田県児童生徒美術展(秋田市審査)

今年度も昨年に引き続き、画像による審査(パワーポイントのデータを使って出品データを作成し、その画像をもとに審査する)という形で行うことになった。昨年度と同じ手順ということで、大きな混乱もなくスムーズに審査することができた。今年度も通常の展覧会に代えて、2月下旬に入賞作品の画像をイオンモール秋田ショッピングセンターセントラルコートの大規模ビジョンに繰り返し映し出す予定である。

組織

会長	畠山 純	(鳥海小学校)		
副会長	菊地 邦彦	(西目小学校)		
事務局	山下 奈知	(本荘東中学校)	宮田 幸江	(尾崎小学校)
研究部長	関口 琢也	(金浦小学校)		
会計	須田 秀二	(仁賀保中学校)		

主な事業

令和3年度造形部総会（紙面）5/10

造形部研修会

12/3

本荘由利図工・美術の学び展 1/22～1/24

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の表現がどうあるべきかを考察すること、また、研究部会・本荘由利図工・美術の学び展・県児童生徒美術展など、様々な形で積極的に研修することを当会の具体的な目標とした。

特に、本荘由利図工・美術の学び展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅広い意味での情報交換の場となっている。展覧会名を一新し、名札に作者の思いを入れて掲示するようにした。また、以前のように奨励賞の選出はせず、「豊かな学び」というみてもらいたい表現の選出を通して、子どもの表現の見方や造形活動の在り方について研修する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 造形部研修会(12月3日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、秋田県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開地区審査会を行った。平成26年度から立体作品の審査も行っているが、各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。また、秋田県児童生徒美術展は審査のみで展示は行われなかったことから、同日搬入搬出となった。各校の協力により審査後にスムーズに作品返却ができた。

今年度も地区審査の中で、話題作を選出することになり、参加者全員で付箋紙を使って協議ができた。造形部員にとっては、児童生徒の作品の傾向・よさ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

(2) 本荘由利図工・美術の学び展(1月22日～1月24日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「あっ、いいこと考えた」を反映した個性豊かな表現が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部が目指す表現を「豊かな学び」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容ともにより充実した美術展となった。

カダーレを会場として実施するのは10回目ということで、3日間で1000名弱の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度も本荘由利図工・美術の学び展が新学習指導要領の趣旨に則った研修の場となるように協議を重ねていき、具体的な取組を各校に発信していく予定である。

組織

会長	熊谷 留美子	(太田東小学校)			
副会長	菅原 靖	(中仙小学校)	永田 縁	(南外小学校)	
監事	三浦 典子	(大曲小学校)	新目 麻衣子	(角館中学校)	
研究部	菅原 久実	(美郷中学校)			
幹事	渡邊 真理子	(大曲中学校)	佐藤 好一	(仙北中学校)	
	三浦 里子	(大曲小学校)	渋谷 千里	(大曲西中学校)	
	田中 真二郎	(西仙北中学校)	菅原 久実	(美郷中学校)	

主な事業

郡市教育研究会総会
決算報告と予算決定、研究テーマ、活動計画、
役員の決定 ※紙面決議

第62回秋田県児童生徒美術展
地区審査会及び冬季研修会 12月3日
第52回大曲仙北児童生徒美術展
しゅしゅえっとまるしえ
12月4日～1月14日 (学年入替制)

令和3年度授業研究会
(令和4年度研究大会に向けて事前研修を兼ねる)
11月1日大仙市立大曲小学校1年・4年
11月30日 大仙市立大曲中学校2年

大曲仙北造形教育研究会第1回研究推進会議
10月19日

研究会の記録

●研究テーマ「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育を求めて」

研究の重点

- 子どもが自分で表したいこと・考えたいことを見付けることができるようにする指導の手立て
- 子どもが学びを実感できるような指導と評価の手立て

●関連事業

・第62回秋田県児童生徒美術展地区審査会及び冬季研修会

昨年度は学年ごとに会場を分散し少人数で審査を行ったが、今年度は感染予防対策を講じ、例年美術展を行っている会場を借りて一斉に審査を行うことにした。「冬季研修会」として多くの会員が参加した。審査基準を踏まえながら、日常生活の中に美を見出す視点や材料の使い方に意図が感じられる、思いや意図を大切にしながら制作していることが感じられるなど、作品を基に話し合うことにより、見方や感じ方を深めることができた。

・第52回大曲仙北児童生徒美術展

本美術展は例年、平面、立体、自由の3部門を設け、募集した多くの作品を一挙に展示する形で開催してきたが、昨年度は世情を鑑み中止した。しかし今年度は、コロナ禍においても児童生徒が互いの作品を鑑賞し、学び合う機会がほしいと考え、募集する部門や作品数を制限し、展示期間に学年入れ替え制を導入するなどの感染予防対策をしながら実施した。

・令和3年度授業研究会

令和4年度「秋季研究会」会場校の、今年度の計画訪問を機会に、指導案検討会や研究協議にも会員が参加する形で授業研究会を行った。新学習指導要領を踏まえた題材設定やねらい、学習評価について教科の枠を超え学び合うことができた。学びを共有し、来年度の研究につなげていきたい。

組織

会長	美濃 俊幸	(横手南中学校)
副会長	藤井 志津子	(浅舞小学校)
事業部長	高橋 輝樹	(横手明峰中学校)
監事	吉沢 理	(十文字中学校)
監事	千田 圭子	(十文字中学校)
事務局	佐藤 潤	(横手南中学校)
研究部	柴田 緩子	(横手北中学校)

主な事業

夏季研修会（秋田県立近代美術館）
令和3年8月19日（木）
「カラクリ展」
「美のしくみ～工芸セレクションほか～」

秋田県児童生徒美術展地区審査
(横手駅前交流センターY2プラザ)
令和3年12月10日（金）～13日（月）

秋田県児童生徒美術展地区審査
(横手駅前交流センターY2プラザ)
令和3年12月13日（月）



審査の様子



横手市児童生徒美術展会場

研究会の記録

○ 夏季研修会

・夏休み前半は各校とも面談が行われるため、夏季休業終盤の開催となった。スケジュール的なこともあったが、参加者が大変少なかったのが、残念であった。展示会の鑑賞は有意義な時間を過ごすことができた。それに加え、参加者間では図工・美術におけるICT活用方法についてや、中学校での評価の観点についての意見交換などを行うことができた点もよかった。

〈参加者から〉

・子どもたちが興味をもてる内容の鑑賞だったので、生徒の視点で作品を見たり、教材として生かせる部分を探したりと、多面的な切り口で作品と向き合えてよかった。

○ 第46回横手市児童生徒美術展・秋田県児童生徒美術展地区審査

・昨年度は小・中あわせて389点の出品だったが、今年は375点であった。実際、数的にはそれほど減少ではないが、作品数が減ったというのが展示作業を終えての印象であった。県児童生徒美術展の審査は、作品を通して複数の先生で話し合いながら進めるため、作品の見方について絶好の研修機会となった。横手市では県美術展への出品料が予算化されていないため、費用がネックとなって、出品できない学校があったが、昨年度今年度は、出品料がかからないため、参加校が増えた。今後に向けて、市児童生徒美術展の出品規定の見直しや、賞状の扱いなど、検討課題は幾つかある。会員で話し合い、今後のよりよい美術展の在り方を考えていきたい。

組織

会長	三浦 秀巳	(三梨小学校)	
副会長	佐藤 かよ子	(湯沢南中学校)	
事務局	鈴木 陽	(湯沢東学校)	井上 晴子 (羽後明成小学校)
研究部	長雄 義明	(雄勝中学校)	
幹事	池田 亜紀	(三梨小学校)	
会計	高橋 香理	(湯沢北中学校)	

主な事業

秋田県児童生徒美術展地区審査
(湯沢東小学校／令和3年11月25日)

会誌「このゆびとまれV o l . 21」製本・発送
(湯沢北中学校／令和4年1月24日)

冬季研修会 実践発表と講演
(湯沢ロイヤルホテル／令和4年1月11日)

研究会の記録

◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地区展審査より

総出品数 150 点 (小学校 111 点・中学校 39 点) のうち、45 点を本郡市の入賞作品とし、その中の 5 点を話題作として選出した。以下に今年度の審査講評からの特記事項を抜粋する。

(低学年)

想像したことやそれに対する思いや願いが、作品に込められている作品が目をつけた。虫やザリガニなどのふれあいを題材にした作品は、生活科の学習での活動や体験で感じたことや生き物への思いが絵からあふれ出していた。

(中学年)

想像を広げて自由な考えで楽しんで描いている。にじみ、たらし込み、スクラッチなど様々な技法を使いこなしていた。

(高学年)

校舎を描いた風景画や多色刷り版画、切り絵など題材が多岐にわたっていて見応えがあった。自分なりのテーマを意識して制作を進めている作品や自分が思い描いたものを表現したことが伝わってくる作品が多かった。

(中学校)

主題が明確で、人間の内面が伝わる表現が多い。空間や奥行きなどをうまく使っている作品が多い。取捨選択をしてこの表現になった、という感じが出ている。

◎冬季研修会

講師：加藤 久夫先生 (湯沢雄勝造形教育研究会 前会長)

演題：「美術教師を振り返る」

昨年度で退職された加藤会長の記念講演を実施した。また、今年度の秋田県造形教育研究大会 (能代山本大会) の発表者である雄勝小、藤原和彦先生の発表も行った。



第 62 回 秋田県児童生徒美術展

話題作一覧

	題名	学校名	氏名	地区
小1	おうい、こっちであそぼう！	早口小学校	すずき りょうや	大北
	さかなにのってゴー	向能代小学校	あらき いっさ	能代山本
	ワクワク水ぞくかん	天王小学校	みさわ いおり	男鹿潟上南秋
	あそぼうよ、フクロテナガザル	築山小学校	さとう ひびき	秋田市
小2	海の中は楽しいな！	花輪小学校	井上 和	鹿角
	さつまいもハウス	仙南小学校	鈴木 ひだか	大曲仙北
	ふしぎな水ぞくかん	西馬音内小学校	たかはし ようしん	湯沢雄勝
小3	にじいろ平原の恐竜たち	八幡平小学校	山口 翔真	鹿角
	楽しいよ！私の黒板カー	新山小学校	齋藤 明璃	本荘由利
	星の世界にレッツゴー	神代小学校	高橋 武道	大曲仙北
小4	カラフル山の魚たち	上小阿仁小学校	田中 丈心	大北
	とび出せうずまき！ギザギザ山	向能代小学校	小林 祐翔	能代山本
	夜を明るくする大大大大花火	仁井田小学校	守屋 和馬	秋田市
	ひみつきち 不思議の国の木	朝倉小学校 東成瀬小学校	大山 瑚々奈 伊勢谷 実玖	横手 湯沢雄勝
小5	図工に集中	第四小学校	佐藤 汰樹	能代山本
	空飛ぶまち	美里小学校	菊池 悠斗	男鹿潟上南秋
小6	雲梯から見えるグラウンド	花輪小学校	石木田 笑瑠	鹿角
	原生林の生物たち	山瀬小学校	関 蒼空太	大北
	私は見た 幻の世界を	五城目小学校	舘岡 紅花	男鹿潟上南秋
	仲間が待つ教室へ	日新小学校	塚田 悠生	秋田市
	雪を呼ぶ風	大内小学校	菊地 玲奈	本荘由利
	生命のつながり	鳥海小学校	真坂 怜	本荘由利
	何度も通ったホール	西仙北小学校	小笠原 梓	大曲仙北
	光と闇をめぐらせる	朝倉小学校	高橋 花音	横手
	図書室	旭小学校	齋藤 百華	横手
	猫	西馬音内小学校	沼澤 虹衣	湯沢雄勝
中1	思い出に残る宝物	十和田中学校	大西璃蒼	鹿角
	男鹿のナマハゲ（男鹿中地区）	男鹿南中学校	佐沢 翔太	男鹿潟上南秋
	記憶	美郷中学校	福田 由奈	大曲仙北
中2	静寂	能代第一中学校	近藤 里緒	能代山本
	自分の心	能代第二中学校	佐藤 こはる	能代山本
	海の友達	男鹿東中学校	田村 絢音	男鹿潟上南秋
	手の向こう側に	山王中学校	山内 優里	秋田市
	最後のベルアップ	本荘北中学校	三浦 慶昭	本荘由利
	Story 私が見た世界	横手明峰中学校 横手北中学校	菊地 詩織 高橋 日菜	横手 横手
中3	自信	十和田中学校	田子 響聖	鹿角
	今、咲く	阿仁中学校	菊地 舞夢	大北
	私の中で	本荘東中学校	石井 葵衣	本荘由利
	私を彩るものたち	角館中学校	鈴木 結奈	大曲仙北
	自然と人間の生きる力 住人さん	湯沢北中学校 羽後中学校	佐藤 柚奈 佐藤 花香	湯沢雄勝 湯沢雄勝

話題になった作品

小学生



早口小学校
すずき りょうや
おうえい、こしかくおまかせぼーい！

聖園幼稚園



さかなにのってゴー
向能代小学校
あらき いっさ



ワクワク水ぞくかん
天王小学校
みさわ いおり



あそぼうよ、フクロテナガザル
築山小学校
さとう ひびき



海の中は楽しいな！
花輪小学校
井上 和



さつまいもハウス
仙南小学校
鈴木 ひだか



ふしぎな水ぞくかん
西馬音内小学校 たかはし ようしん



にじいろ平原の恐竜たち
八幡平小学校 山口 翔真



楽しいよ！私の黒板カー
新山小学校 齋藤 明璃



星の世界にレッツゴー
神代小学校 高橋 武道



カラフル山の魚たち
上小阿仁小学校 田中 文心



とび出せうずまき！ギザギザ山
向能代小学校 小林 祐翔



夜を明るくする大大大大花火
仁井田小学校 守屋 和馬



ひみつきち
朝倉小学校 大山 瑚々奈



不思議の国の木

東成瀬小学校
伊勢谷 実玖



図工に集中

第四小学校
佐藤 汰樹



空飛ぶまち

美里小学校
菊池 悠斗



雲梯から見えるグラウンド

花輪小学校
石木田 笑瑠



原生林の生物たち

山瀬小学校
関 蒼空太



私は見た 幻の世界を

五城目小学校
舘岡 紅花



仲間が待つ教室へ

日新小学校
塚田 悠生



雪を呼ぶ風

大内小学校
菊地玲奈



生命のつながり
鳥海小学校 真坂 怜



何度も通ったホール
西仙北小学校 小笠原 梓



光と闇をめぐるらせる
朝倉小学校 高橋 花音



図書室
旭小学校 斎藤 百華



猫
西馬音内小学校 沼澤 虹衣

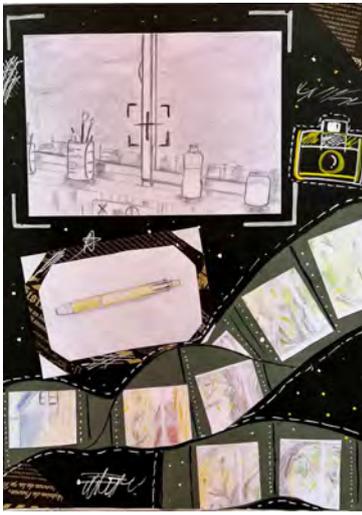
中学生



思い出に残る宝物
十和田中学校 大西 璃蒼



男鹿のナマハゲ(男鹿中地区)
男鹿南中学校 佐沢 翔太



記憶

美郷中学校

福田 由奈



静寂

能代第一中学校

近藤 里緒



自分の心

能代第二中学校

佐藤 こはる



海の友達

男鹿東中学校

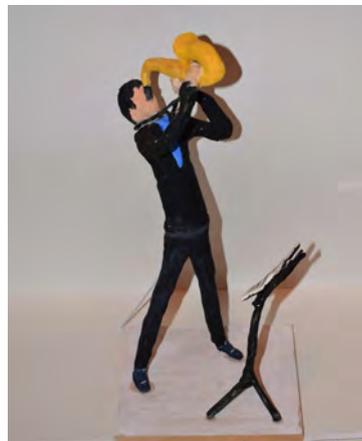
田村 絢音



手の向こう側に

山王中学校

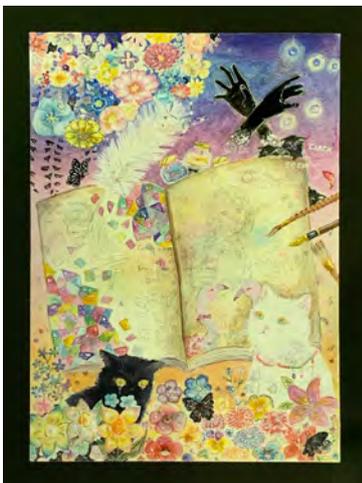
山内 優里



最後のベルアップ

本荘北中学校

三浦 慶昭



Story

横手明峰中学校

菊地 詩織



私が見た世界

横手北中学校

高橋 日菜



自信
十和田中学校
田子 響聖



今、咲く
阿仁中学校 菊地 舞夢



私の中で
本荘東中学校
石井 葵衣



私を彩るものたち
角館中学校 鈴木 結奈



自然と人間の生きる力
湯沢北中学校
佐藤 柚奈



住人さん
羽後中学校 佐藤 花香

第43回 秋田県造形教育研究大会

令和3年度 北ブロック（能代山本）大会

《第2学年》

1 題材名 すきです！浅小

2 目標

(1) ・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付く。

(知識)

- ・クレヨンやカラーペンなどの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。

(技能)

(2) ・形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、学校と自分との関わりから想像し、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。

(発想や構想に関する思考力、判断力、表現力等)

- ・形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等)

(3) ・楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 児童と題材

(1) 児童について（男子4名 女子5名 計9名）

本学級の2年生9名は、毎日元気に登校し、楽しく学校生活を送っている。「絵を描いたり物をつくったりすることが楽しい」「自分が思ったようにできるから嬉しい」などの理由から、9名全員が図画工作科を好きな教科として挙げ、意欲的に学習に取り組んでいる。これまで製作してきた作品を「みんなのわくわくびじゅつかん」に展示し、12月に全校児童に公開することを楽しみにしている。

これまでの学習では、想像したことをうまく表すことができずに悩み、なかなか製作に取り組めない児童もいたが、ほとんどの児童は、身近な生活の様子から想像を広げ、感じたことを絵に表したり工作したりすることを楽しみながら学習してきている。

(2) 題材について

本題材は、「自分が好きな学校の様子」と「自分との関わり」について想像したり考えたりしたことを絵に表す学習で、指導する事項は、小学校学習指導要領図画工作科の内容「A表現」（1）イ，（2）イ，「B鑑賞」（1）ア，【共通事項】（1）ア，イである。

学校という身近な存在をテーマとすることにより、生活科や学校行事等これまでの経験を基にしながら存分に想像を広げることができる。「自分が好きな学校の様子」については、「ぼくは理科室の水槽にいる金魚がお気に入りだよ」「ランチルームのライオンが格好良くて好きだよ」などのように、具体的にイメージを膨らませることができるよう、「どの」「何の」「どのような」というポイントを押さえた対話の時間を十分に確保したい。また、「自分との関わり」についても、「水槽の金魚と一緒に泳ぎたいな」「ライオンの背中に乗りたいな」など、「こうなったら面白いな」「自分がここにいたら愉快だな」といった気持ちを引き出すために、友達との交流場面を設定する。

本大会テーマの「あきた」を「学校」と捉え、形や色でそのよさを再発見した上で、「みんなのわくわくびじゅつかん」展示により広く発信し、多くの人たちに評価されることで十分に達成感を味わうことができる題材になると考えている。

(3) 指導について

本題材導入のきっかけとして、生活科の時間に「学校の好きなところ見つけ」を行い、学校への思いを明確にする。本題材では、「好きな学校の様子」について「楽しい感じがするから」「わくわくするから」など、なぜ好きなのかという「思い」を引き出すことを重要視する。一人一人が独自のストーリー展開ができるように、「わくわく」「どきどき」等の「思い」を表すキーワードを提示し、自分と対話しながらストーリーを想像する時間を確保する。また、イメージに合う形や色で表現するために、それぞれの形や色のイメージを掲示した「イメージコーナー」や、表す方法を試す「おためしコーナー」の設置、作品を友達に見せたり、自分の悩みを相談したりするための「そうだんタイム」の設定などにより、児童が安心して活動に取り組めるようにする。「わくわくする感じだから黄色を使ってみた」「ゆったりした感じだから青色にした」など、造形的な視点を基に自分のイメージに合った表し方について考えが深まるようにするため、「形」や「色」というキーワードを常に掲示しておく。

本時では、製作中の児童の作品からイメージに近付けるための「形や色の重要性」を短時間で確認した上で、自分の作品と向き合うための製作の時間を十分に確保したい。終末には、前時までの作品と本時の作品とを比較することができるよう、ICTを活用した振り返りを行う。自分の作品の変容を実感し、達成感を得るだけでなく、さらにイメージに近付けるための方法を「形」や「色」などの造形的な視点にもどって考えることができるよう促したい。

4 題材の評価規準と指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 クレヨンやカラーペンなどの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、学校と自分との関わりから想像し、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(2) 指導と評価の計画（5時間）

時数	学習活動	評価の観点，評価方法等				主体的に学習に取り組む態度
		知識・技能		思考・判断・表現		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校と自分との関わりについて想像し、表したいことを見付ける。 	◎ 観察 対話 作品		○	○	
2	<ul style="list-style-type: none"> 自分が想像したことについて、イメージを広げ、どのように表すかを考えて表す。 		○	◎ 観察 対話 作品 カード		
3 (本時) ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 自分が想像したことについて、表し方を工夫して表す。 		○			
	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友達と話し合う。 				◎ 観察 対話 発表 カード	◎ 観察 対話 発表 カード

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

《第3学年》

1 題材名 すきです！浅内

2 目標

- (1) ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。
(知識)
・水彩絵の具などを適切に扱うとともに、クレヨンやカラーペンについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
(技能)
- (2) ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、浅内地区と自分との関わりを想像し、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
(発想や構想に関する思考力、判断力、表現力等)
・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
(鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等)
- (3) ・進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 児童と題材

- (1) 児童について (男子2名 女子3名 計5名)
本学級の3年生5名は、明るく素直な子どもたちである。「絵を描いたり物をつくったりすることが楽しい」「うまくつくれると嬉しい」等の理由から、5名全員が図画工作科を好きな教科として挙げ、意欲的に学習に取り組んでいる。これまで製作してきた作品を地域の歩道橋に展示し、地域の方々に喜んでもらうことを楽しみにしているため、意欲が継続している。
これまでの学習では、なかなか自分の表したいことを見付けることができず、つくり始めに時間がかかってしまったり、友達の影響を受けすぎて、同じような作品をつくったりする児童もいたが、自分なりの表し方を見付けようと試しながら製作活動に取り組むようになってきている。
- (2) 題材について
本題材は、「自分が好きな浅内地区の様子」と「自分との関わり」について想像したり考えたりしたことを絵に表す学習で、指導する事項は、小学校学習指導要領図画工作科の内容「A表現」(1)イ、(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イである。
浅内地区という身近な存在をテーマとすることにより、総合的な学習の時間や全校遠足「浅内地区巡り」、地域の方との交流等、これまでの経験を基に存分に想像を広げることができる。「自分が好きな浅内地区の様子」については、「わくわくするからロケット実験場が好き」「迫力があるからナゴメハギが好き」などのように、「なぜ好きなのか」理由を明確にした対話の時間を十分に確保したい。また、「自分との関わり」についても、「ロケットに乗りたいな」「ナゴメハギになってみたい」など、「こんなことをしてみたいな」「こうなったら愉快だな」といった気持ちを引き出すために、友達との交流場面を設定する。
本大会テーマの「あきた」を「浅内地区」と捉え、形や色でそのよさを再発見した上で、地域の歩道橋への作品展示により広く発信し、多くの人たちに評価されることで十分に自己有用感を味わうことができる題材になると考えている。
- (3) 指導について
本題材導入のきっかけとして、総合的な学習の時間に「浅内地区の好きなところ見つけ」を行い、地域への思いを明確にする。本題材では、「好きな浅内地区の様子」について「楽しい感じがするから」「わくわくするから」など、なぜ好きなのかという「思い」を引き出すことを重要視する。一人一人が独自のストーリー展開ができるように、「わくわく」「どきどき」等の「思い」を表すキーワードを提示し、自分と対話しながらストーリーを想像する時間を確保する。なかなかイメージがわからない児童には、「これにはどんな秘密があるのかな」「この世界に自分が入り込んだら何が起こりそう？」と問いかけ、対話しながら進めていきたい。また、イメージに合う形や色、材料で表現するために、それぞれの形や色、材料のイメージを掲示した「イメージコーナー」や、表す方法を試す「おためしコーナー」の設置、作品を友達に見せたり、自分の悩みを相談したりするための「そうだんタイム」の設定などにより、児童が安心して活動に取り組めるようにする。「どきどきする感じだから赤色にした」「迫力を出したいから、太い筆を使って輪郭を描いた」など、造形的な視点を基にした言語活動の充実を図るため、「形」や「色」、「材料」というキーワードを常に掲示しておく。
本時では、製作中の児童の作品から、イメージに近付けるための「形や色、材料の重要性」を短時間で確認した上で、自分の作品と向き合うための製作の時間を十分に確保したい。終末には、前時までの作品と本時の作品とを比較することができるよう、ICTを活用した振り返りを行う。自分の作品の変容を実感し、達成感を得るだけでなく、さらにイメージに近付けるための方法を「形」や「色」、「材料」などの造形的な視点にもどって考えることができるよう促したい。

4 題材の評価規準と指導と評価の計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 水彩絵の具などを適切に扱うとともに、クレヨンやカラーペンについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、浅内地区と自分との関わりについて想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくり出す喜びを味わい進んで表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(2) 指導と評価の計画 (5時間)

時数	学習活動	評価の観点, 評価方法等				主体的に学習に取り組む態度
		知識・技能		思考・判断・表現		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<ul style="list-style-type: none"> 浅内地区と自分との関わりについて想像し、表したいことを見付ける。 	◎ 観察 対話 作品		○	○	
2	<ul style="list-style-type: none"> 自分が想像したことについて、イメージを広げ、どのように表すかを考えて表す。 		○	◎ 観察 対話 作品 カード		
3 (本時) ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 自分が想像したことについて、表し方を工夫して表す。 		○			
			◎ 観察 対話 作品 カード			
5	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友達と話し合う。 				◎ 観察 対話 発表 カード	

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

5 本時の展開（2年：本時3／5，3年：本時3／5）

(1) ねらい

《2年》

クレヨンやカラーペンなどの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に、表し方を工夫して表す。

《3年》

水彩絵の具などを適切に扱うとともに、クレヨンやカラーペンについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて、表し方を工夫して表す。

(2) 指導過程

2年				3年			
学習評価	○教師の働きかけ・支援の留意点	学習活動		学習活動	○教師の働きかけ・支援の留意点	学習評価	
	○児童の学習意欲が高まるよう、題材のゴールを提示する。 ○児童が見通しをもって学習できるよう、学習の流れと今日のゴールを示す。	1. 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 (一斉)	であう	1. 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 (一斉)	○児童の学習意欲が高まるよう、題材のゴールを掲示しておく。 ○児童が見通しをもって学習できるよう、学習の流れと今日のゴールを示しておく。		
イメージぴったりの形や色をつかって作品づくり！				イメージぴったりの形や色，材料をつかって作品づくり！			
	○学習の中心となる考えを意識できるよう、児童の作品を意図的に取り上げ、造形的な視点を基に、イメージに合った表し方について話し合った上で、自分の作品の表し方について考える時間を設ける。	2. 自分のイメージに近付けるために、どんな表し方をしたらよいか考える。 (一斉)	ひろげる※	2. 自分のイメージを広げながら、製作する。 (個)	○自分のイメージに合った表し方を考えることができるよう、「イメージコーナー」「おためしコーナー」を活用するよう板書に示しておく。		
○クレヨンやカラーペンなどの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に工夫して表している。 【技能】 (観察・対話・発表・カード)	○主体的に、造形的な視点を基に自分のイメージに合った表し方を見付けられるよう、表し方を工夫している児童を称揚しながら机間指導を行う。 ○イメージに合った表し方をなかなか見付けられない児童には、「イメージコーナー」や「おためしコーナー」を活用するよう助言する。	3. 自分の表したいことを試しながら、製作する。 (個)		3. 自分のイメージに近付けるために、どんな表し方をしたらよいか考える。 (一斉)	○造形的な視点を基に、自分のイメージに近づくための表し方を考えるよう、児童の作品を取り上げ、イメージに合った表し方について話し合った上で、自分の作品の表し方について考える時間を設ける。	○水彩絵の具などを適切に扱うとともに、クレヨンやカラーペンについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【技能】 (観察・対話・発表・カード)	
目指す子どもの姿 ・試してみたらこの色の方がぴったりだったよ。 ・～な感じにしたいから、○色にしてみたよ。 ・今度の時間は、もっと～してみたいな。 など				4. 自分のイメージに近付けるために、工夫して製作する。 (個)	○イメージに近づく製作をすることができるよう、色や形をどうしたらよいか、どんな材料を使ったらよいか具体的に考えるよう助言する。 ○イメージに合った表し方をなかなか見付けられない児童には、「イメージコーナー」や「おためしコーナー」を活用するよう助言する。	目指す子どもの姿 ・色をつかったら、イメージに近付いたよ。 ・ぼくは、○○なイメージだからこの材料を使ってみたよ。 ・今度の時間は、もっと～したらイメージに近付きそうだ。 など	
	○造形的な視点を基に活動を振り返ることができるよう、代表児童の作品を取り上げ、イメージに近付けるための表し方の工夫について確認した上で、ペアで交流する時間を設ける。 ○達成感を味わうことができるよう、前時との作品の比較にICTを活用する。	4. 本時の学習を振り返る。 (個)	ふりかえる※	5. 本時の学習を振り返る。 (個)	○造形的な視点を基に活動を振り返ることができるよう、代表児童の作品を取り上げ、イメージに近付けるための表し方の工夫について確認した上で、ペアで交流する時間を設ける。 ○達成感を味わうことができるよう、前時との作品の比較にICTを活用する。		

※ 適宜直接指導ができる時間

直接指導

間接指導

1 題材名 木々を見つめて ～能代風の松原の「お気に入りの木」を表現しよう～

2 目標

- (1)・五感を使った観察活動を行い、木々の形や色、触り心地などの特徴に気付くなど、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。
(知識)
- ・水彩絵の具、クレヨンやパスなどを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
(技能)
- (2)・見た感じ、触った感じ、においの感じなどを基に、自分のイメージをもち、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、形や色などを工夫しながら、どのように表すかについて考える。
(発想や構想に関する思考力、判断力、表現力等)
- ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、完成した作品を鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
(鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等)
- (3)・ふるさと能代の風の松原に興味をもち、進んで自分のお気に入りの木を表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 児童と題材

- (1) 児童について (男子13名 女子20名 計33名)
 明るく素直な子どもたちである。ほとんどの子どもが、図工の学習が好きと答え、その理由としては絵を描くことや物をつくるのが楽しいと答えている。2名の児童が、嫌いと答え、その理由は、「思い通りに表すことができない。」「失敗してしまう。」とあげている。
 これまでの授業では、なかなか自分の表したいことを見付けられず、描き始めるのに時間がかかってしまったり、失敗を恐れて、描き進めていけない児童もいたが、ほとんどの児童は、楽しみながら造形活動に取り組んでいた。

- (2) 題材について
 本題材は、木々の形や色、触り心地などの特徴を感じて気に入った木を見付け、絵の具やパスなどで形や色を工夫しながら表し方を考えて描く学習で、指導する事項は、小学校学習指導要領図画工作科の内容「A表現」(1)イ、(2)イ「B鑑賞」(1)ア、[共通事項](1)ア、イである。実際に見た感じ、触った感じ、においの感じなどから、自分の表したい木のイメージが広がっていくことが期待できる。対象のありようを忠実に再現することを求めるのではなく、木と出会ったことで木から感じ取った印象や感覚を大切に、感じたことから表したいことを見付ける。そして表したいことを基に描いてみたい形や自分でつくった色などで表すことは、自分らしい表現を追求することであり、表現する楽しさを十分に味わうことができる題材と考える。
 また、地元「能代風の松原」を題材に取り上げ、地元のよさ、木々の美しさなどを実感させることで、児童が造形的な見方・考え方を働かせながら、造形活動に取り組む姿につなげていきたい。

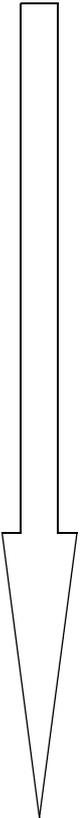
- (3) 指導について
 導入では、1学期に出かけた「風の松原」のことを取り上げ、能代市の自然の豊かさを想起させるために、実際に木を見たり、触ったり、目を閉じて葉の揺らめきを聞いたり、体全体を通して木を感じたことを思い出す時間を設ける。そうすることで、自分のイメージをもつことができると考える。なかなか表したいことを見付けることができない児童には、自分が1学期に撮影したお気に入りの木の写真を取り上げ、なぜお気に入りの木なのか、考えたことを絵や言葉にして話し合いながら進めていきたい。ここではじっくりと木と関わり、児童たちが感じたことを大切にしていく。また、自分の描きたいことに合わせて表し方を工夫し、豊かに表現できるように、いろいろな描画材料を準備したり、描き方の紹介コーナーを設定したりする。なかなか、描き始めることができない児童のために、写真からどんな感じがするか、友達と話す時間を設けたり、描き方のヒントになるような掲示をしたりする。
 本時は、完成したお気に入りの木を、お互いに鑑賞する時間である。同じ力強い木がテーマの作品でも、表現の仕方は、児童一人一人違うため、「そんな表し方もあるんだ。」「おもしろいな。」と感じることができるように、それぞれの児童が感じ取ったり考えたりしたことを紹介し合う場にしたい。その際、鑑賞の視点を示し、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができるよう言語活動の充実を図っていく。

4 題材の評価規準と指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った観察活動を行い、木々の形や色、触り心地などの特徴に気付くなど、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 水彩絵の具、クレヨンやパスなどを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 見た感じ、触った感じ、においの感じなどを基に、自分のイメージをもち、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、形や色などを工夫しながら、どのように表すかについて考えている。 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、完成した作品を鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい進んで表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(2) 指導と評価の計画 (5時間)

時数	学習活動	評価の観点, 評価方法等				
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<ul style="list-style-type: none"> 1学期行った「風の松原」での五感を使った木の観察活動を想起する。 撮影してきたお気に入りの木の写真から、どんな感じがするか交流し合い、表したいことを見付ける。 	◎				
2	<ul style="list-style-type: none"> 描画材料のさまざまな表現方法を試しながら、イメージを広げ、表したいことを、どのように表すかを考える。 			◎	○	
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 描画材料のさまざまな表現方法を試しながら自分の思いに合った表し方を工夫して表す。 		○	◎		
			◎			
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 友達や自分の完成した作品の工夫した表現について伝え合う。 				◎	
				観察 対話 発表 ワークシート	観察 対話 発表 ワークシート	

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。
◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

5 本時の計画（本時5／5）

(1) ねらい ・自分の作品を紹介し合い、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(2) 展開

	学習活動	○教師の働きかけ・支援の留意点	学習評価
であ う	1. 前時の活動を振り返り、 本時のめあてをつかむ。 (一斉)	○本時の活動につながる自分の思いを 想起できるよう、前時までの活動過 程の写真を提示する。 ○児童が主体的に活動できるよう、学 習の流れを掲示する。	
	完成した作品を紹介し合い、よさや工夫を感じ取り、伝え合おう！		
ひろ げ る	2. 鑑賞の仕方について見通 しをもつ。(一斉)	○造形的な視点を基に作品を捉えるこ とができるよう、児童の気付きを引 き出しながらカードで鑑賞の視点 (よさ・面白さ・工夫)を確認する。 ○「表したいこと」を紹介し、作者の 思いを踏まえて、そのことがどこか ら感じられるか、またその作品のよ さや面白さなどについて感想を交流 できるよう、参考作品を鑑賞しなが ら、学習の中心となる考えを押さ える。その際ははっきり話ることが できるように、話型を提示する。 ○「表したいことに合わせてどのよ うに表し方を工夫したのか」などにつ いて紹介できるよう、事前に考えを シートに整理させておく。	
	3. 完成した自分の作品につ いて、紹介し合い感想を交 流する。(グループ)	○互いの表現の工夫を感じ取ることが できるように、次の活動を設定する。 ①自分の表したいことを紹介し、それ を受けて他のメンバーは表したいこ とに合わせてどのように表したのか 感じ取り、伝え合う。 ②作品のよさや面白さについて、感想 を交流する。	○自他の作品の造形的なよさ や面白さ、表したいことな どについて、感じ取ったり 考えたりし、自分の見方や 感じ方を広げている。 【思考・判断・表現(鑑賞)】 (観察・対話・発表・ ワークシート)
	4. いろいろな表現の工夫を 全体で共有する。(一斉)	○いろいろな表現の仕方があることを 実感できるように児童全員の作品を 掲示し鑑賞する時間を設ける。 ○創造の喜びを味わわせることがで きるように一人一人の表現に意味や価 値があることを確認し、達成感や成 就感をもたせるようにする。 ○いろいろな表現の工夫があることを 再確認できるように、価値付けをす る。	目指す子どもの姿 ・迫力を表したかったから、 太い線で描いたんだな。 ・明るい感じにするために、 色を薄く塗ったんだな。 ・いろいろな工夫があって、 おもしろいな。 ・そんな表現の仕方もあるん だな。 など
ふり か え る	5. 本時とこれまでの活動を 振り返る。(個)	○友達と作品を紹介し合って、感じた こと、自分の表現の仕方と比べて思 ったことなどを振り返りの視点とし て示す。	※「主体的に学習に取り組む 態度」は活動全体を通して 把握し、最後に記録を残す。 この時間として、次のよう な姿で表れると考える。 目指す子どもの姿 ・いろいろな木があって面白 いな。 ・様々な表し方があるんだ な。 ・みんなでまた描いてみたい な。 など

1 題材名 再発見！～わたしのふるさと金陵の丘～

2 目 標

- (1)・自分の感覚や行為を通して、線の動き、色の鮮やかさなどを理解する。
(知識)
・表現方法に応じてクレヨン、水彩絵の具、クレパス、カラーペンなどを活用するとともに、前学年までのクレヨンや水彩絵の具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
(技能)
- (2)・動きや色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、見て感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題に表すかについて考える。
(発想や構想に関する思考力、判断力、表現力等)
・動きや色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
(鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等)
- (3)・主体的に金陵の丘のお気に入りの場所を表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 児童と題材

(1) 児童について (男子6名 女子8名 計14名)

本学級の児童は、明るく、真面目な児童が多い。ほとんどの児童は、図画工作の学習が「好き」と答え、その理由として、「絵を描くことや、ものをつくるのが楽しい。」と答えている。3名の児童は、「嫌い」と答え、その理由は、「何を描いていいかわからない。」「絵を描くのが苦手。」と答えている。

また、自分の技能に自信をもてずに、消極的になってしまう場面が見られた。これまでの授業では、失敗してしまうという不安から、なかなか描き始めることができなかった。しかし、友達との対話を中心に学習を進める中で、自分に自信をもって積極的に楽しみながら活動したり、友達の作品を参考にすることで、描き始めることができたりするようになってきた。

(2) 題材について

題材名にある「金陵の丘」とは金岡小学校付近の別称である。本題材は、自分の気に入った身近な場所から感じたことをもとにイメージを広げ、絵に表す学習である。指導する事項は、小学校学習指導要領図画工作科の内容「A表現」(1)イ、(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、[共通事項](1)ア、イである。

本題材は、自分の気に入った身近な場所から感じたことをもとにイメージし、技法を試すことで、表現したいことを発見できる楽しさがある。実際の風景を再現していくだけの活動ではなく、自分のお気に入りの場所からイメージを膨らませ、抽象的な表現も取り入れていく。

また、自分や他者との対話を繰り返しながら、自分の見方や感じ方を「再発見」することで、自分のイメージに合った形や色を求めて、つくってはつくりかえていくことが重要となる。児童が普段何気なく見ている「ふるさと金陵の丘」を造形的な視点を基に新たに捉え直させることで、美しい形や色を再発見したり、主体的に感じたことや考えたことを発信したりする姿につなげていきたい。

(3) 指導について

本題材では、多様な材料や用具を使い、表現方法を十分に試すことができる学習環境を充実させ、感覚や行為を通して形や色などを実感的に理解できるよう指導していく。

最初に、金陵の丘を探検し、自分のお気に入りの場所を見付ける。そして、「その自分のお気に入りの場所から、感じたことや想像したことは何ですか。」という発問から、児童が自分の表したいイメージをもてるきっかけにしたい。イメージをもてない児童のために、友達と対話する時間を設けたり、前時まで作成した「形・色・イメージ表」を参考にさせたりする。

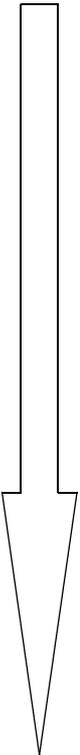
本時では、鑑賞活動を通して、一つの作品にも十人十色の見方や感じ方があることに気付かせたい。そのために、子ども自身で造形的な視点を基に思考を広げたり深めたりできるように、話型を示したり、作品の部分に着目した話し合いができるように、トリミングの枠を使ったりする。そして、自分の作品の1番見てほしいところに視点を絞ってグループで紹介し合い、その後の全体交流に広げていく。友達との話し合いを通して、様々な見方や感じ方に触れることで、今までの自分にはなかった新しい気付きを得られるようにしたい。

4 題材の評価規準，指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して，動き，色の鮮やかさなどを理解している。 表現方法に応じてクレヨン，水彩絵の具，クレパス，カラーペンなどを活用するとともに，前学年までのクレヨンや水彩絵の具などについての経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きや色の鮮やかさなどを基に，自分のイメージをもちながら，見て感じたことから，表したいことを見付け，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，どのように主題に表すかについて考えている。 動きや色の鮮やかさなどを基に，自分のイメージをもちながら，自分たちの作品の造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくり出す喜びを味わい，主体的に自分の心の中のイメージを絵に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(2) 指導と評価の計画（5時間）

時間	学習活動	評価の観点，評価方法等				主体的に学習に取り組む態度
		知識・技能		思考・判断・表現		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場所を見付け，その場所に合った自分の絵のイメージを膨らませる。 	○		○		
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場所の思いやイメージなど，表したいことに合わせて形や色を工夫して表す。 		○	○		
		◎	○	◎		
		観察 対話 作品 シート		観察 対話 作品 シート		
			◎			
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 友達と互いの作品を鑑賞し合い，よさや美しさなどを感取ったり考えたりすることで，見方や考え方を深める。 				◎	◎
					観察 対話 発表 シート	観察 対話 発表 作品 シート

○・・・題材の評価規準に照らして，適宜，児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして，全員の学習状況を把握し記録に残す。

5 本時の展開（本時 5 / 5）

- (1) ねらい ・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- (2) 指導過程

	学習活動	○教師の働きかけ・支援の留意点	学習評価
であ う	<p>1. 作品鑑賞ゲームをする。 (グループ)</p> <p>2. 本時のめあてをつかむ。 (一斉)</p>	<p>○児童が楽しみながら作品のよさや工夫点に気付けるようにする。</p> <p>○児童が見通しをもち、主体的に活動できるよう、学習の流れとめあてを掲示する。</p>	
	<p>完成した作品をもとに交流し、友達の作品のよさや工夫点を見付けよう。</p>		
ひろ げる	<p>3. 作品を鑑賞し合い、表現の工夫について紹介し合う。 (グループ)</p> <p>4. いくつかの作品を取り上げ、全体で紹介し合う。 (一斉)</p>	<p>○形や色、イメージなどの視点を基に、自分の作品に込めた「思い」や「表現の工夫」を紹介できるように、ワークシートを準備する。</p> <p>○これまで各自で書き溜めてきた「形、色、イメージ表」も参考にさせる。</p> <p>○作品の部分にも着目できるよう、トリミングの枠を使って鑑賞する。</p> <p>○主体的に話し合うことができるように話型を用意する。</p> <p>○様々な見方や感じ方に触れられるよう、交流で多様な意見が出た作品を取り上げる。</p> <p>○一人一人の感じ方によさがあることを再確認できるように、全体を揺さぶる。</p>	<p>○動きや色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (観察・対話・発表・ワークシート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目指す子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色から、○○のようなイメージをもった。 ・1つの形や色でも、ちがう見方や感じ方があるんだな。 ・十人十色の見方があって面白いな。 <p style="text-align: right;">など</p> </div>
ふり か え る	<p>5. 本時の活動を振り返る。 (個人)</p>	<p>○本時の授業を通して学んだことや感じたことを書くことができるよう、振り返りの視点を示す。</p>	<p>※「主体的に学習に取り組む態度」は活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。この時間として、次のような姿で表れると考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目指す子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞して、自分の考えを話すことができ良かった。 ・これからも、自分の見方や考え方を大切にして作品づくりに取り組もう。 ・これからも、自分の思いを表現していきたい。 <p style="text-align: right;">など</p> </div>

1 題材名 ふるさと能代をPRするエコバッグをデザインしよう！～能代のオリジナル文様づくり～

2 目標

- (1)・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。(知識)
 - ・消しゴムはんこや彫刻刀、カッター等の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。(技能)
- (2)・ふるさと能代をPRするエコバッグをデザインするために、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練る。(発想や構想に関する思考力、判断力、表現力等)
 - ・文様の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深める。(鑑賞に関する思考力、判断力、表現力等)
- (3)・主体的にふるさと能代をPRするエコバッグをデザインする活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 生徒と題材、指導

(1) 生徒について (男子9名 女子19名 計28名)

明るく素直な生徒が多く、表現活動に一生懸命取り組むことができる。また、学級全体で認め合える雰囲気があり、仲間の作品を鑑賞し、形や色彩、イメージなどの造形的な視点を基に、よさや美しさ、工夫などを伝え合うことができる。

事前アンケートでは、彫刻刀を使った制作への興味・関心が高かったが、「なかなかいいアイデアが浮かばない」などアイデアを出すこと(発想・構想段階)への苦手意識が3割程度見られた。そこで、ワークシートとともにタブレットを資料収集の手段や思考ツールとして活用することで、身近な自然物などの特徴を見出したり表したいイメージを明確にしたりできるようにし、苦手意識を和らげたい。また、発想や構想の段階で考えの交流を行うことで、他者の考えや工夫を参考にしたり、アドバイスをし合ったりするなど、仲間との関わりを通して、発想や構想を広げられるようにしていきたい。

(2) 題材について

本題材は、ふるさと能代をモチーフにした文様を考え、エコバッグに押印する文様の形や色彩を改良してデザインを決めた後、消しゴムに文様を彫って、エコバッグに押印する学習である。指導する事項は、中学校学習指導要領美術の内容「A表現」(1)イ(ア)「構成や装飾の目的や条件を考えた発想や構想」と(2)ア(ア)「創造的に表す技能」、 「B鑑賞」(1)ア(イ)「目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞」である。

日常生活において、普段使っている食器や布地、建物の壁面など、様々なものに文様が用いられている。日本の伝統文様をはじめ、それらの文様は、植物や動物といった自然物などをモチーフにし、人々の願いが込められ、単純化・デザイン化したものが多い。本題材では、伝統文様の鑑賞を通して、ふるさとの自然物や特産、名所、伝統、歴史などをモチーフに、自分が能代のよさとして伝えたいものや心ひかれたものは何か、またなぜよいと思ったのかを考える。そして、考えたものの特徴を捉えて単純化し、形や色彩に置き換えて、ふるさと能代のオリジナル文様を工夫して表現する。それらの文様を連続させたり組み合わせたりするなどして、配置や配色を考えてふるさと能代をPRするエコバッグをデザインさせたい。完成したエコバッグを能代に訪れた人々に使ってもらうため、使う人の立場や心を和ませるなど、より客観的な視点をもって制作できるように、地域の民生委員の方々から、能代のよさについてのアドバイスや、生徒が発想した文様への感想をいただくことにする。エコバッグをデザインする活動を通して、環境を意識した社会との関わりや生活の中で役立つ美術の働きについて考え、社会とのつながりを実感することで、見方や感じ方を深められるようにしたい。

(3) 指導について

ふるさと能代をモチーフにした文様を考え、エコバッグに押印する文様の形や色彩を改良してデザインを決めた後、消しゴムに文様を彫って、エコバッグに押印する。また、完成したエコバッグを能代に訪れた人々に使ってもらうことをはじめに伝え、制作に取り組みさせる。他者が使うことを目的としているため、能代のよさが伝わり、より多くの人に喜んで使ってもらえるように主題を設定し、性別や年齢、好みなどが偏ることがないように、客観的な視点でデザインを考えさせたい。そのため、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた授業づくりを進めていく。

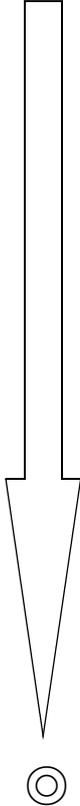
本時では、タブレットの発表ノートを思考ツールとして活用し、仲間からのアドバイスを基に、文様をエコバッグにどのように押すと最もよく自分が表したいことを具現化できるかをシミュレーションする。はんこを彫った後に用紙に押しつけて構成を考える方法もあるが、本学習では、彫る前にタブレットの「3Dペイント」を用いる。これによって、文様の形や色彩を手軽に変化させることができる上に、消しゴムのどこを彫ればいいのか、陽刻と陰刻のどちらの彫り方がより主題に合っているかなどの違いを比較して判断することもでき、より有効であると考えている。

4 題材の評価規準，指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などを基に，全体のイメージで捉えることを理解している。 消しゴムはんこや彫刻刀，カッター等の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成や装飾の目的や条件などを基に，ふるさと能代をPRするエコバッグをデザインし，用いる場面や環境，社会との関わりなどから主題を生み出し美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え，表現の構想を練っている。 調和のとれた洗練された美しさなどをデザインしたエコバッグの文様などから感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に地域を訪れる人々に対してふるさと能代をPRするエコバッグをデザインする表現の学習活動に取り組もうとしている。 美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に作品から洗練された美しさを感じ取ったり，表現の意図などについて考えたりするなど，鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 指導と評価の計画（8時間）

時 数	学習活動	評価の観点，評価方法等				主体的に学習に 取り組む態度
		知識・技能		思考・判断・表現		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	・ 伝統文様の鑑賞から，形や構成，モチーフや意味などを知り，よさや美しさ，工夫などを感じ取る。	○ 発言の内容 ワークシート			○ 発言の内容 ワークシート	
2	・ 能代のよさを共有する。 ・ 地域のモチーフから文様の主題を生み出し，アイデアスケッチをする。			◎ アイデアスケッチ ワークシート	○ 発言の内容 ワークシート	
3	・ 主題を基に形の単純化や強調，連続性などを工夫して，文様のデザインの構想を練る。			○ アイデアスケッチ タブレット		
4 本 時	・ 主題を基に文様のつながりや組合せ，向きや配色などを工夫したり形を改良したりして，デザインの構想を練る。			◎ アイデアスケッチ タブレット 発言の内容，活動の様子	○ 発言の内容 タブレット	
5 6 7	・ 文様を消しゴム版に彫る。 ・ 試し押しをし，彫り具合を確かめ，修正する。 ・ デザインした構成に沿ってエコバッグに押印する。	◎ 発言の内容 ワークシート 作品等	◎ 作品 ワークシート			
8	・ 互いの作品を鑑賞し合い，よさや美しさを感じ取り，意図や工夫について考え，見方や感じ方を深める。	○ 発言の内容 ワークシート			◎ 発言の内容 ワークシート 活動の様子	

○・・・題材の評価規準に照らして，適宜，生徒の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして，全員の学習状況を把握し記録に残す。

5 本時の展開 (本時 4/8)

(1) ねらい ふるさと能代をPRするエコバッグをデザインするために、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練る。

(2) 指導過程

	学習活動	○教師の働きかけ・支援の留意点	学習評価
出会う	<p>1. 参考作品を鑑賞する。 (一斉)</p> <p>2. 本時の学習のめあてを確認する。 (一斉)</p>	<p>○文様の配列を変えると印象が異なって見えることに気付かせるために、オリンピックのエンブレムの形や色が変わる動画を見せて比較させる。</p> <p>○表現の構想を練るための視点をもつことができるように、参考作品を基に生徒の気付きを引き出し、めあてを設定する。</p>	
	<p>能代のよさが伝わるデザインにするために、配色や配置などを工夫しよう。</p>		
		<p>○より多くの人に喜んで使ってもらえるように、性別や年齢、好みなどが偏ることがないようにすることが大切であることを確認する。</p>	
広げる	<p>3. タブレットで文様の並びや組合せ、配色等を考えて試す。 (個)</p> <p>4. グループや全体で作品を鑑賞し合う。 ①意見交流する。 (グループ)</p> <p>②参考となる生徒の作品を鑑賞する。 (一斉)</p> <p>5. 鑑賞を通して考えたことを基に、デザインを再考する。 (個)</p>	<p>○つまづいている生徒には文様の並び替えを一緒に考えたり、参考例を提示し、自分で選択できるようにする。</p> <p>○複数の案を比較して鑑賞するためにタブレットの「グループワーク」を用いる。</p> <p>○自分のテーマについての思いを語らせ、アドバイスや工夫などを伝え合わせる。</p> <p>○総合的に考え構想を深められるよう、配列等の参考となる生徒の作品を紹介させる。</p> <p>○美意識を高め、見方や感じ方を深めることができるように、調和のとれた洗練された美しさがある作品を意図的に取り上げる。</p> <p>○意見交流や互いの工夫等から気付いたことを自分の作品に生かしてデザインできるように、机間支援を行い、個に応じた助言をする。</p>	<p>○ふるさと能代をPRするエコバッグをデザインするために、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (シート・タブレット・発言の内容・活動の様子)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目指す子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置を斜めにしたら、バスケットボールの躍動感が感じられるようになった。 ・能代花火の華やかさを伝えるために、明るい色のグラデーションを組み合わせた。 など </div>
振り返る	<p>6. 本時の活動を振り返る。 (個)</p>	<p>○今日のめあてに対する工夫や変容を感じ取り、試すと再考後のデザインを比較しやすいように、タブレットに並べて表示したものを確認しながら振り返らせる。</p>	

「描きたい、作りたい」という気持ちを引き出す学習過程の工夫

～多様な想像力を発揮して主体的に造形活動に取り組む児童を育てるために～

北秋田市立鷹巣小学校 豊田良香

1 提案趣旨

新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が求められて数年がたった。図工の授業は自由に描いたり、作ったりすることができるので児童にとっては楽しい時間であるにとらえていた。しかし、発想を広げることができず、表したいことが思いつかないため、悩んで手が止まってしまう児童も見えてきた。

そこで、「描きたい、作りたい。」という気持ちを引き出し、多様な想像力を発揮して主体的に造形活動に取り組む児童を育てるために、これまでの体験や他教科との関連を図った活動も取り入れてみてはどうかと考え、本題材化に取り組んだ。

2 実践の概要

(1) 児童の体験や他教科との関連を図った題材

・題材名「できたらいいな こんなこと」

1年～のぞいてみたら…～

①国語で学習した、「おむすびころりん」「大きなかぶ」の物語を提示し、物語の続きやのぞいてみたらこんな世界があったらいいなということを想像し、思いついたことを話し合う。



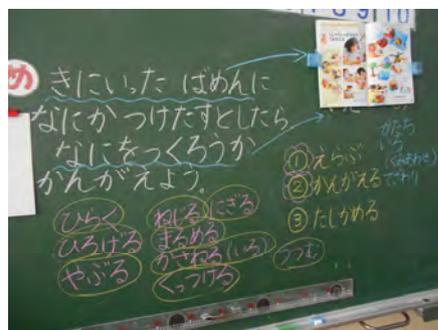
②画用紙をちぎって形を楽しみながら大きなかぶや大きな穴を作り、版を刷る。

③大きなかぶや大きな穴の中に「できたらいいな」と思うことを想像を広げて思いのままに表す。

(2) 高校生の作品とコラボした題材

・題材名「くしゃくしゃがみから うまれたよ」

1年～シーツシアター～



①薄い紙の感触を味わい、「開く」「広げる」「破る（裂く）」「ねじる」「握る」「丸める」などの

基本操作を楽しんだ後、市内の高校生が製作したシーツシアターを提示して、紙をくしゃくしゃにした形から、どんなものができるか話し合い、どの場面（シーツシアター）に作品を飾ってみたいかも考える。

②各自の思いに合わせて、紙の操作やつけ方を工夫して表し、試行錯誤しながら友だちのアドバイスも参考に形にしていく。

③飾る場所を決めて飾り、他のシーツシアターの友だちの作品も鑑賞し合い、自分の作品の気に入ったところを発表したり、友だちの作品の素敵などころを付箋に書いたりする。

3 成果と課題（○成果 ●課題）

○国語で学習した物語を題材とすることで、1年生でも想像しやすくなり、紙版画にも挑戦できた。

○ひらめきの時間でじっくり対話することにより、自分が思いつかなかったことを自分の作品に自由に取り入れやすくなり、悩む児童がいなかった。

○シーツシアターを見ながら表現したり、表現しながら互いの作品を見て話し合ったりすることで、考えを広げたり深めたりすることができた。

●版画の時間では、友だちの活動を見ることができたが、児童だけでは進めることができず、待つ時間が長くなってしまった

●シーツシアターという場面にしたため、「身に付ける」という活動が少なくなってしまった。

身近な自然の造形物に対して、形や色などの造形的な視点を働かせて見ようとする意識を高める授業の実践

題材名「気分は名探偵 ～ムシの美術館・逃げたムシはコイツだ！～

湯沢市立雄勝小学校 藤原和彦

1 提案趣旨

本校は、田んぼや山に囲まれた自然豊かな環境にある。春の運動会練習の最中には、払っても払っても体操服に小さな昆虫がくっついてきた。プールの中や休み時間に遊ぶ中庭でも、多くの種類の昆虫が子どもたちと一緒に遊んでいる。夜の街灯付近にはたくさんの昆虫が飛び交って寄ってくる。しかし、それらは、田舎に住む子どもたちにとってあまりにも身近な存在であり、その形や色の造形をじっくりと観察されることは少ない。

「昆虫」は3年生の理科で学習する。「からだは頭・胸・腹の3つの部分からできている。胸から3本×2の6本のあしが出ている」等の体のつくり等について学習する。しかし、個体の形や色等についての学習はない。

そこで、人工的な美術・工芸作品だけでなく、自然（生活）の中にも造形的な美しさをもつものが数多くあり、身近な自然のそれらの造形物に対して、子どもたちが形や色を意識した造形的視点で見ようとする意識を高めたいと考えた。

また、絵を描いている子どもたちを見ていると、「他者に思いを伝えるために、意識して形（構図）や色を選択している」という子どもは少ないように感じる。「感じ方は人それぞれだが、自分が絵を描く際に、見る人に自身の思いを伝えるヒントとなる形や色を意識して選択させたい」と常々考えていた。

以上の2点が本題材に取り組んだ理由である。

2 実践の概要

- 導入；「飼っている2匹のムシが逃げたから探してほしい。1匹は『おしやれなムシ』。もう1匹は『いじわるなムシ』。」の問題を出す。
 - ・お客さんからの依頼と称して、探偵気分を高め、活動への意欲付けを図った。
 - ・どちらもムシの形や色を意識して探し出す。
 - * 「おしやれ」は外見で判断でき、おしやれに対する個々の価値観・感性で選ぶことができる。
 - * 「いじわる」は内面である。内面をムシの外見から判断・価値付けすることは難しい。
- めあて；「形や色から逃げた二匹を探しだそう」
 - ・なんとなくではなく、探し出した昆虫を紹介する根拠として「形」「色」を意識させた。



3) 活動①；「まずは一人で探してみよう」

・友達の見解に流されないように、一人で鑑賞し、対象の2匹のムシを選び、提示資料に付箋を貼り付ける。

4) 活動②；「学習グループで交流しよう」

・4人ずつの学習グループで、選んだムシ（作品）の交流をする。選んだムシの前に行き、意識した形や色の部分を指し示しながら交流をする。



5) 活動③；「全体で交流しよう」

・児童全員で、活動②の交流で興味深かった意見をグループから発表してもらい紹介し合う。

6) 振り返り

3 成果と課題（活動①②③より）

- ①提示した資料の裏に、実際の大きさの写真を貼り付けておくことで、1～2cmほどの小さな昆虫の体にとっても複雑な形や色が存在していることに驚き、関心をもつ子どもが多く見られた。
- ②同じ「おしやれ」や「いじわる」でも、グループ内で選ぶ作品や選んだ理由が違い、形や色が同じでも、感じ方には違いがあるということに改めて気付いた子どもが多く見られた。
- ③同じムシを選んでも、見方が違うと理由が違い、同じ形や色でも受け取り方が様々であることに気付いた子どもが多く見られた。
- ③「友達との交流では同じムシを見てもいろいろな見方があり楽しかった。」と見方の違いを認め、見方を深めた子どもが多く見られた。
- 振り返りで「次は別の昆虫や身近な物にも目を向けて見てみたい」と述べた子ども、「次に作品を作るときに、もっと形や色を意識していきたい」と考えた子どもが見られた。
- ①普段の小さい昆虫は大丈夫（本人談）だが、拡大して提示した昆虫に恐怖心を覚えたり、気持ち悪く感じたりした子どもが数名いた。
- 学習が終わった後「正解はどれですか」と質問された。「感じ方・感性は人それぞれ」ということを伝えるための手立てが不足だった。

私たちのふるさと秋田の自然の中にも多くの造形美があり、それらの形や色に意識を向けさせられる題材に今後も取り組んでいきたいと思えます。

鑑賞用提示資料；「象虫ゾウムシ マイクロプレゼンス」小檜山賢二写真集 出版芸術社

自ら学び、つくり出す喜び・楽しさを感じ表現する子どもの育成

題材名 ゆめいろらんぷ ～すてきな光の世界～

鹿角市立花輪小学校 海沼 智恵子

1 提案理由

子どもが、造形的な見方・考え方を働かせながら進んで表現や鑑賞の学習活動に取り組むためには、実体験を伴いながら様々な対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉えることが必要である。それらは、子ども自らの感覚や行為を通して理解することが大切なことであり、その活動を充実させることが、自分のイメージをしっかりとちながら創造的につくったり表したりすることができる子どもを育てることにつながると思う。

そこで、形や色、イメージなどの造形的な視点を働かせて、楽しみながら自分の思いを表現できる子どもを育てるために、感じたことを言語化したり、友達と共有したりすることが必要だと考え、実践を進めてきた。また、環境設定を工夫することによって多様な発想力や表現力が生みだされることを想定し、今回の題材化に取り組んだ。

2 実践の概要

- 対象や事象を造形的な視点で捉えられるようにするために、様々な材料や素材を試す時間を十分に確保し、感じたことを言語化して「イメージマップ」に表した。
- 自分のイメージ（テーマ）を具体的にもつことができるようにするために、総合的な学習との関連を図り、校外学習での見学や体験を生かすようにした。改めて「鹿角のよさ」に気付くと共に、ふるさとにある伝統的なものを色や形の視点で捉えられるようにした。
- 主体的に活動できるようにするために、材料を豊富に用意したり、自分の作品と向き合う場所として暗室を設定したりして、「つくる」「見る」「考える」「つくる」の思考のサイクルを継続できるようにした。
- 「対話」は、人とだけではなく、材料や用具、自分の作品との対話もあると捉え、自分のイメージに合うように何度も試行錯誤することができる時間を確保した。
- 作品の変容を見たり、次時への意欲を高めたりするために、タブレットを活用して作品づくりの工程を毎時間記録した。また、ICTの活用によって学級全員の作品を自由に見ることができるよう、子どもたちが自然に表現と観賞を行き来しながら学習活動を行えるようにした。

3 成果と課題

- テントを活用して広い暗室を用意したり、材料コーナーと活動場所の確保をしたりするなど、環境設定を工夫したことで、子どもが主体的に取り組むことができた。
- イメージマップや ICT を活用したことで、一人一人が自分のイメージを明確にもち、造形的な視点で材料や素材選びをすることができた。
- 対話の際には「工夫のポイント」に示された言葉の活用を促すことで、自分の思いが他者にも伝えられた。
- ▲材料だけでなく、道具についても選択肢を豊富にし、子どもの思いを実現させる工夫が必要である。
- ▲児童一人一人の思いを視覚的に捉えられるようにするために、ICTの活用の仕方について、より有効的な方法を検討していく。

